

第10期石西礁湖自然再生協議会 新規参加希望者の紹介

区分	お名前・名称	活動内容や石西礁湖自然再生に対する思いなど
個人	荒井 忠行 (一般財団法人自治体国際化協会)	<p>これまで、文部科学省に勤務し、ESD(持続可能な開発のための教育)の国内外への普及に取り組んできました。2014年には名古屋市と岡山市でESDに関するユネスコ世界会議を実施し、ユネスコ加盟国におけるESDの議論を進めました。2018年から2020年には、東南アジア教育大臣機構(SEAMEO)による域内各国の小・中・高等学校のESD・SDGsの実践活動に対する表彰(SEAMEO ESD-AWARD)の審査委員を務めました。また、同時期に、同省における太平洋・島サミットの担当者として、島しょ国の国土保全に関する研究協力、文化遺産保護等の協力を進めてきました。</p> <p>個人としては、約10年前より千葉県生物多様性センター生命のにぎわい調査団に参画し、県内の在来種・外来種の発見と報告に取り組んでいます。また、今年から武蔵野市環境市民会議及び千代田区生物多様性推進会議の公募委員として、両自治体の議論に参画しております。</p> <p>私は1970年代に京葉工業地帯を有する千葉市で生まれ、大気汚染や水質汚染に直面しながら育ってきたことから、環境保護の必要性を痛感しております。貴協議会のホームページを通じて、石西礁湖のサンゴ礁が激減している事を知って非常に驚いたことから、自然再生に向けて、自身で何かできないかと思い、応募させて頂きました。サンゴ礁に関する専門的な知見はありませんが、これまでの経験を通じて、貴協議会では、主に地域住民・児童生徒への普及啓発等で貢献したいと考えます。</p> <p>なお、東京都内在住のため、会議への参加はオンラインにてお願い申し上げます。</p>
個人	北野 裕子 (一般財団法人自然環境研究センター)	<p>自然研の業務で石西礁湖群集モニタリング調査に携わっています。また、個人としては、日本サンゴ礁学会の教育普及啓発委員会のメンバーとしても活動しております。</p> <p>サンゴやサンゴ礁に関わるようになって15年ほどになりますが、その間でも複数回の大規模なサンゴの白化現象があり、かつての美しかったというサンゴ礁を私が生きているうちに見ることが叶うのかどうか、とても悲観</p>

		<p>的な気持ちでいます。石西礁湖の再生協議会に関わることで少しでも明るい話題を得てゆくことができればと期待しております。</p>
団体	Upside 合同会社	<p>石西礁湖海域の水温情報の可視化アプリや海底地形マップの生成準備を八重山漁協と協働作業しております。また、沖縄県が所有する水温センサーのWEBアプリを運用しています。</p> <p>2019年から八重山漁協における水産業のIT化に取り組んでまいりましたが、弊社が記録しているデータを鑑みただけでも昨今の気候変動（特に海水温変化）は顕著になっております。サンゴ生育環境のみならず、魚類や海藻栽培においても急激な変化に適応した対策が必要となっていることを実感しております。まずは、現状をデータで可視化することにより、対策や運用に反映できるデータ活用に弊社技術が貢献できれば幸いです。</p>
団体	一般社団法人サステナブルアイランド石垣	<ul style="list-style-type: none"> ・ HPにてサンゴ礁の大切さ、地域とグローバルな環境とのつながり、本質的な守りかたの理解について発信している。 ・ ポンツーンなど影響を及ぼす非持続的な観光拠点の形成について阻止するため会社経営層への情報提供や啓蒙、地域の人々の声をまとめ伝えるアンケート実施、SNSでの情報拡散を実施した。 ・ 八重山漁協と廃棄魚網のアップサイクルプロジェクト。 ・ 低インパクトで地域の自然資源を生かす観光の促進。 ・ 持続可能な島産業の促進。 ・ アースクリーン（ビーチクリーン）プロジェクトの支援。 ・ 研究者と市民、企業間の情報交換・連携の促進など <p>島に移住して11年たちその素晴らしさ、環境と文化と歴史などなど総合的な豊かさ、素晴らしさを実感しています。この豊かさを当たり前と思わず、住人自身が誇りに思い大切に守り継ぎながら社会・環境・経済がよいバランスで循環する島をつくれるよう、持続可能な石垣島のた</p>

		<p>めに長期的な環境保全のビジョンを育んでいきたいと考えています。 そのために、行政・研究者・市民・企業・観光客などを結び、皆が本質的な理解のもとで協働できるような問題解決につなげるためのプラットフォーム作り、情報発信、政策提言、協働の提案をしていくことを団体の目標としています。 個人的にはグローバルマリンコンサルティング代表として世界各地の統合沿岸管理・コミュニティベース沿岸資源管理、持続的漁業への改善、国際漁業認証のコンサルタントをしてきたため、フィリピンやインドネシア等のアジア太平洋諸国、アメリカ・中南米での沿岸資源保全活動から得た知見を活かしたいと思っています。</p>
<p>団体</p>	<p>株式会社フジタ 技術センター</p>	<p>2022年10月～2024年3月までの2年間において、石垣市包括連携協定に基づく脱炭素・資源循環に関する実証試験事業として、以下の事業を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマスガス化発電で発生するバイオ炭※を原料に、特殊処理を行い、プライムカーボン®を製造した後、下水処理場からリンを回収し、肥料（リン含有バイオ炭をプライム肥料®と呼ぶ）および堆肥として田畑へ施用することで農地へ炭素を貯留し、脱炭素と資源循環を目指す環境総合事業 特に、牛糞にプライム肥料®を混ぜることで牛糞の腐熟が促進され、リン成分も含まれる高機能な堆肥（プライム堆肥®）が生産できるため、その普及を推進し、適正な家畜糞尿処理に向けて、その解決策の一つになるよう、推進していきたい。 <p>石垣島において珊瑚は大切な資源であり、島の未来を創造していくにあたって、石西礁湖の再生は急務です。島の家畜糞尿処理が適正にされないために、海へのリン流出が生じ、珊瑚の骨格形成に大きな影響を及ぼしていることが明らかになってきているので、当社が開発した技術を用いて家畜糞尿処理問題の解決を模索し、珊瑚の再生に寄与していきたいと思っています。</p> <p>プライム肥料®やプライム堆肥®の普及とともに、サンゴを守る農産物等のブランド化に対してアプローチし、持続的な石西礁湖の自然再生となるよう、経済循環の仕組みづくりに貢献していきたいと考えております。</p>